

早稲田大学大学院文学研究科
博士学位申請論文審査報告要旨

申請者氏名	劉 徳凱
学位の種類	博士(文学)
論文題目	魏晋南北朝時代における帯金具の考古学的研究

審査要旨

本論文は、魏晋南北朝期の東アジア（中国・朝鮮半島・日本列島）に広く分布する帯金具に注目し、考古学的な分析によって、その系統・年代を位置付けると同時に、製作・流通・使用・副葬の各段階における様相を整理し、当該期における帯金具の歴史的意義を迫及した研究である。具体的には、漢～魏晋南北朝の帯金具を、馬蹄形帯金具群・晋式帯金具群・蝶番状帯金具群に三大別し、分類単位群ごとの型式変化、分布、および製作・副葬年代を整理した。その上で、魏晋南北朝の帯金具にⅠ～Ⅷ段階を設定し、各段階における歴史的背景を論じた。

従来の研究では、帯金具の中でも特徴的な資料群、特に晋式帯金具に注目した分析が主流であったのに対して、本研究は中国を中心として東アジアに広く分布する帯金具を悉皆的に集成し、通時的・総合的な位置付けを試みており、学術的に意義のある成果だと考える。

以下では、各章における成果を整理した上で、最後に本論の学術的意義に関してまとめる。

序章

帯金具とは、中国の服飾制度の中で用いられる帯の装飾用金具であり、魏晋南北朝期を中心として朝鮮半島や日本列島にも伝播した。主に墳墓の発掘で副葬品として出土するが、中国・韓国・日本など各国によって用語や概念が異なっている。そのため、序章ではまず、帯金具を部位毎に分けて用語を整理した。また研究史上明らかになってきた製作技術に関してもまとめた上で、分析対象となる時期・地域を整理した。序章は、本論文の基礎を固める部分である。

第1章 研究史と課題

本章では、中国・韓国・日本で進められてきた研究史を整理し、問題点・課題を抽出した。具体的には、型式分類・金工品製作・地域間交流・社会的性格の項目を分けて研究史を概観した後、3つの問題点を指摘している。従来の研究では、①分析対象が晋式帯金具に集中していた点、②分析部分も帯扣金具に集中していた点、③帯金具の系統性・通時的变化を明らかにできていない点、を問題点としている。その上で、①東アジア（中国・朝鮮半島・日本列島）での悉皆的な資料集成、②型式学的方法による動態の把握、③文献・図像資料も含めた歴史性の追求、の3つの方法によって現状の課題を克服する方向性を示した。

第2章 帯金具資料集成

本章では、魏晋南北朝期の東アジアに分布するすべての帯金具の集成を行った。中国では、北方地域・西北地域・東北地域・南方地域に分けて、帯金具の実測図を示すと同時に、出土した墓葬の様相を丁寧に整理した。その上で、朝鮮半島・日本列島の出土例を示し、国内外の博物館に所蔵されている出土地不明の帯金具の集成も行った。

筆者が集成した東アジアの帯金具は、合計114式570点で、研究史上最も広範囲に悉皆的な集成を行った点で極めて重要な作業といえる。

第3章 帯金具の型式学的検討

本章では、第2章で集成した帯金具の資料群を対象として、考古学的な型式分類を行った。まず、漢～魏晋南北朝の帯金具を、①馬蹄形帯金具群、②晋式帯金具群、③蝶番状帯金具群に大別し、特に②と③の帯金具群に着目し、部材の分類、型式分類を行っている。以上の基礎作業を踏まえた上で、出土した墳墓の墓誌に基づく実年代の比定、分布状況を整理し、帯金具の製作動向と製作背景を歴史的に位置付けた。特に、②③の帯金具に関して、Ⅰ～Ⅷ段階を設定し、魏晋南北朝期の帯金具の変遷と各段階の様相を具体的に論じた。本章は、本研究の中核となる部分である。

第4章 帯金具の製作・流通・使用・副葬

本章では、第3章での晋式帯金具・蝶番状帯金具の型式分類を踏まえた上で、その祖型となった漢代の馬蹄形帯金具に注目して、晋式帯金具の成立の具体像を明らかにした。さらに、晋式帯金具の製作工程、装着状況、文献・絵画資料から見た社会的性格、文様モチーフなども検討した。

終章

終章では、本研究の成果を総括した。魏晋南北朝期の帯金具は、馬蹄形帯金具→晋式帯金具→蝶番状帯金具へと緩やかに変遷しており、Ⅰ～Ⅷ段階が設定できる。まず、漢代に流行した馬蹄形帯金具から晋式帯金具が派生し、西晋王朝の身分秩序や服飾制度へと組み込まれて定式化する。その後の華北の動乱の中で、生産の中心は三燕・高句麗へと移り、朝鮮半島南部や日本列島へと展開する。蝶番状帯金具は、三燕王朝で創始され、北魏に引き継がれ南北朝時代の主流な形式となる。この形式は北朝の支配者層の身分秩序の表象として価値づけられることになり、隋唐期の帯金具へと発展する。

以上、従来の研究では一部の特徴的な資料群や、各国単位の資料群の分析が主流であったのに対し、中国を中心としつつも、朝鮮半島・日本列島の資料も含めた魏晋南北朝の帯金具を通時的・総合的に分析した点は本研究のオリジナリティを示す部分であり、新しい学術的な試みとして高く評価できる。中国語・韓国語・日本語・英語など多言語を駆使し、東アジアに広く分布する資料の考古学的な分析を進めた点も、将来の国際的な比較研究の可能性を切り拓く重要な作業だと考える。今後、中国を中心として新発掘資料、再報告資料が増加していくと予想されるが、その中で本論文が魏晋南北朝期の帯金具を総合的に論じた最初の研究として重要な役割を果たす点は確実である。

以上の理由から、博士学位授与にふさわしい論文であると判断する。

審査会開催日	2023年 6月 1日
--------	-------------

審査委員資格	所属機関名称・資格	氏名	専門分野	博士学位
主任審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	城倉 正祥	東アジア考古学	博士(早稲田大学)
審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	田畑 幸嗣	東南アジア考古学	博士(地域研究)(上智大学)
審査委員	宮内庁書陵部陵墓課・主任研究官	加藤 一郎	日本考古学	博士(早稲田大学)